

癌医療に於けるインフォームド・コンセントに関する看護婦の関わり方  
—アンケート用紙を活用して—

2病棟4階

○林 久美 伊藤 ヨシミ 石川 智子 松重 淳子  
瀬戸 美由紀 奥田 淳子 有田 信子

1. はじめに

インフォームド・コンセント（以下ICと略す）は、今日の医療の倫理と考えられており<sup>1)</sup>患者中心の医療を行う上で原点とも言える。「癌医療におけるICの出発点は病名告知である」<sup>2)</sup>と述べているが、病名告知の是非やICの内容については、大半が医師や家族の判断で進められる傾向にある。

入院患者のほとんどが癌患者である我が放射線科病棟においても、患者の意思を明確にしないまま家族の意思を重視して、患者に病名告知を行わないことが多い。そのため、癌患者は心理的ストレスを感じたりQOLを維持向上出来ないまま最期を迎える事が多かった。

そこで今回私たちは、患者と家族の病名病状説明に対する意思を知るためにアンケートを実施した。そして、それを基に家族・医療者で十分話し合うことにより、患者の意思を尊重した病名病状説明へと展開できると考え、本研究を行った。その結果、看護婦として援助の方向性を見いだしたので報告する。

2. 研究方法

1)期間：平成9年1月1日～5月31日

2)対象：初回入院で悪性疾患が疑われる患者24名とその家族（検査入院は除く）

3)方法：入院時受け持ち看護婦が、患者・家族へ病名病状説明に関するアンケート用紙（以下アンケートとする）を説明し手渡す(表1)(表2)。患者のアンケートは翌日回収し、回収日より1週間後書かれた内容について再度確認する。変更がある箇所は赤字で書き換え、記入もれの箇所は可能な限り記入してもらう。家族のアンケートは、1週間程度で回収し患者と同様に確認する。両者のアンケートを医師に提供し、それを基にしてカンファレンスを行う。そして医療者間の告知に対する考えを統一する。次に家族と話し合いをもち、患者・医療者の意思を伝え、患者の意思が尊重できるよう話し合う。家族・医療者の意思統一がなされた後、家族・看護婦も同席し医師が患者へ病名病状説明を行う。（尚、当科の看護方式はプライマリナーシングである。）

4)アンケートを集計するとともに、病名告知における看護婦の関わりを1事例述べる。

3. アンケート結果

期間中24名にアンケートを配布し、悪性疾患と診断された患者21名中、告知を希望したのは18名(86%)、希望しなかったのは3名(14%)であった。患者が告知を希望した理由としては、1)これからの人生を有意義に過ごしたい6名、2)納得して治療を受けたい4名、3)気持ちがはっきりする3名、4)理由なし3名、5)家族の意向も考慮する2名であった。

家族の希望については、患者への告知に対し賛成6名(28%)、反対10名(48%)、よくわからな

い・迷っている4名(19%)、患者の意思に従う1名(5%)であった。賛成の理由としては、「本当の事を話すことにより患者と家族と医療者の間に信頼関係ができる」「治療に専念できる」と答えた人がほとんどであった。また反対の理由としては、「患者は気が弱くて癌と聞くとショックを受ける」と答えた人が最も多かった。

家族が患者への告知を賛成しているケースでは、患者も全員告知を望んでいた。患者への告知を反対している家族10名のうち9名は、自分が癌になった時は患者と同じ理由で告知を希望していた。

#### 4. 事例紹介

患者:F氏 69歳 男性 会社員

病名:肺癌(小細胞癌)

家族:妻 長男 次男

経過:アンケートの結果、F氏は病名病状をできるだけ詳しく知りたいと希望していたが、キーパーソンである妻は否定的であることがわかった。私たち医療者はカンファレンスを行い、1)患者は病名病状説明を詳しく知りたいと望んでいる、2)癌は限局しており性質上治療効果があるため、告知して治療を受けてほしい、3)今までの人生で色々な問題を自分で解決してきた、4)性格上穏やかで告知も受容できる能力があるの理由から告知は可能と判断した。その後、妻・医師・看護婦で話し合いを行った。妻は「自分のことなら本当の事を言ってほしいと思う。しかし主人は、強くて頑張る人ですが、告知をすると癌=死とつながり生きる望みを無くしてしまうようで怖い」と泣きながら話した。妻の話をも十分聴きながら、医師は、告知が可能であると判断した理由を説明した。看護婦は、F氏が真実を知ることによって家族や医療者と本当のことを話し合えるようになり、信頼関係が深まると説明した。そして、患者にとっては家族の支えが大切であり、F氏が満足のいく闘病生活が送れるよう援助してほしいと話した。またこれから生じてくる問題に対しては、家族と常に話し合いながら対処方法を考えていき、さらに医療者が、患者・家族を支えていくことを説明した。最終的には妻は「今までは主人の気持ちを大切にしてきましたのですが、初めての事なのでどうしてよいやら動揺しています。やっぱり主人の希望どおりにしてみます。この病院に来て本当に良かったと思います」と話し告知に対して同意をした。その後F氏には、医師から希望どおりに病名病状説明が行われた。

#### 5. 考察

##### 1)アンケートについて

太田は<sup>3)</sup>、「ICの基本原則は患者の意思を尊重する所にある」と述べているように、癌医療における病名告知についても同様と考える。アンケートの結果、患者の86%は病名告知を希望しており、自分の病名病状を知ることによって、これからの人生を前向きに過ごしていきたいと思う人が多いことがわかった。『癌に関する世論調査』<sup>4)</sup>においても同様に、65%の人が告知を望んでおり、おまかせ医療から自分自身の問題として認識するようになったと考える。また家族は患者への告知を反対しているにも関わらず、家族自身が癌になった場合は90%の人が告知を希望している。前述の世論調査でも同じ結果が出ており、山崎<sup>5)</sup>は、「告知を希望している家族が実際に癌になった場合、他の家族の反対で知らされない事がかなりある」と述べている。この様に癌告知に関しては、患者・家族・医療者の立場で考え方に違いがある。そこで三者が情報交換を行い、話し合うことで、“ずれ”が修復できると考える。

## 2)事例について

患者と家族の意思が異なる場合、日本の医療現場においては、家族の意向を無視することはできない土壌がある<sup>6)</sup>。そこで私達は、医師に患者の意思を伝えカンファレンスを行った。その結果、お互いの情報を共有し、医師・看護婦の意思統一と相互理解ができたと考える。次に妻と医療者で話し合いを行った。医療者が妻の気持ちを十分聴くことで妻は感情の表出ができ、また妻に告知する意味・意義を説明することで、お互いの気持ちが理解でき、意思の疎通が図れたと考える。そして、患者・家族の苦悩に対していつでも援助することを約束することで、信頼関係ができ、告知への同意が得られたと考える。

本事例でのかかわりを通して、患者の意思を尊重した病状病名説明を行うための看護婦の援助として、以下の4点が重要であることが明らかになった。

- 1)患者・家族の意思を明確にするために、アンケートを採ること
- 2)アンケートをもとに、医療者間でカンファレンスを行い意思統一を図ること
- 3)家族と医療者が話し合うことで、お互いの気持ちが理解でき、意思の疎通を図ること
- 4)告知後の、患者・家族への援助方法を説明し、信頼関係を深めること

## 6. おわりに

今回の研究では事例が少ないため本研究で得られた成果を結論付けることはできない。今後とも事例を加えながら、患者の全体像をとらえ、IC に向けての効果的な看護援助について、考えて行きたい。

## 引用・参考文献

- 1) 太田和雄:がんの告知を考える,からだの科学, P79~82, 1996
- 2) 前掲書1), P79~82
- 3) 前掲書1), P79~82
- 4) 読売新聞:がんに関する本社全国世論調査, 1996. 10. 22
- 5) 山崎章郎:がんに関する本社全国世論調査, 1996. 10. 22
- 6) 前掲書1), P79~82



表2.

## 家族の方へのアンケート

私達は、患者さん自身が本当に納得のいく医療を受けられるようお手伝いしたいと思っています。そのためには患者さんが今後の病名、病状や治療計画などの説明についてどのように考えておられるかを知り、患者さんの意思を尊重したものにすることが必要だと考えています。しかし、家族の方の病状説明に対するお考えも伺い、今後の参考にしたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

入院日 年 月 日

記入日 年 月 日

あなたの氏名 \_\_\_\_\_

年齢 \_\_\_\_\_ 才

性別 男・女

患者さんの氏名 \_\_\_\_\_

患者さんとのご関係 \_\_\_\_\_

1. あなたは患者さんの病気がたとえ治りにくい病気であっても、本人に本当の病名を知らせたほうがよいと思いますか。

- (1) はい 理由
- (2) いいえ
- (3) その他

2. あなたと患者さんとの間で医療に対する考えが違う場合には、どのようにしたらよいと思いますか。

- (1) 患者さんの考えを優先する
- (2) あなたの考えを優先する
- (3) 医師の判断に任せる
- (4) その他（右に具体的に記入下さい）

3. 仮にあなたが患者さんになった場合、検査内容・結果、治療方針、病状経過などについてどの程度医師から説明を受けたいと思いますか。

- (1) 詳しく知りたい 理由
- (2) 簡単に知りたい
- (3) 都合の悪いことは知りたくない
- (4) その他

4. 仮にあなた自身が治りにくい病気になった場合、本当の病名を知りたいと思いますか。

- (1) はい 理由
- (2) いいえ
- (3) その他

5. その他医療や医療従事者に関するあなたのお考えがありましたらご記入ください。